

# 市制30周年記念

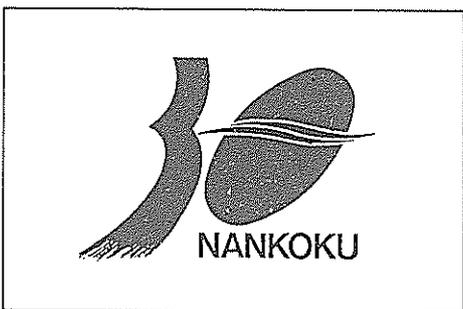
## シンボルマークと標語決定

来年の市制施行三十周年のシンボルマークと標語がこのほど決まりました。

これは三十周年の記念事業や市発行の印刷物、封筒などに使用するために、九月から新聞や広報などを通して募集していたものです。シンボルマークは二十九点、標語は八十六点が応募。十二月六日に開かれた市制施行三十周年シンボルマーク、標語選定委員会で慎重な選考を行った結果、次の作品が選ばれました。

### シンボルマーク

#### ◎最優秀作 北川健二（高知市）

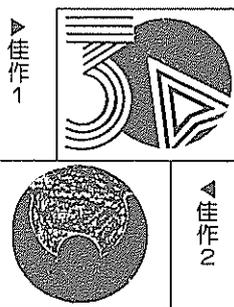


現し、カタカナのナのにニシヤル

で二十一世紀を目指す南国市をシンボライズした。」と言っている。数字の30の秀れたデザイン化が基調をなしており、30の傾斜と大門によって、動きと広がりを持たせ、大門を横切る波線は、田圃を渡るすがすがしい風を、また広い南国の空を、もしくは海の幸をもたらす太平洋の波のうねりを連想させ、躍動感にも満ちている。

そして、市色（やまももの赤）である赤と紺べきの昔とのコントラストも力強さを感じさせ、発展する南国市を象徴しているように思う。

- 選評・田島哲巳
- 佳作1 高木正平（前浜）
  - 佳作2 浜田末吉（前浜）



### 標語

#### ◎最優秀作 山本陽子（久礼田）

「まほろば」

夢が羽はたく

南国市

南国市のイメージを表わす言葉として「まほろば」は代表的なものである。古くから開かれた文化と歴史の上に、新生南国市は市制三十周年という輝かしい節目を迎えた。

多くの課題は全市民の英知と協力によって着実に解決されてきたが、最近の急激な社会の進展は、新しい課題を提起しその対策が要求されている。「夢」は将来への高遠な願望や

設計であり個人的な意味も含まれているが、南国市となれば託する夢となり、豊かさや、文化や、住みよい都市づくりという市民（作者）の願いも生かされる。全体に調子よくまとまった標語である。

- 選評 柴枝利実
- 佳作1 高木正平（前浜）
  - 「田圃・文化 生きる欲び 南国市」

佳作2 池知篤（篠原）

「市制30 豊かな明日への夢おこし」

○シンボルマーク・標語選定委員  
門田益治（市議会議長）  
柴枝利実（教育研究所長）  
田島哲巳（造形教育研究会長）  
岡本巧（青年代表）  
坂本和香（婦人代表）  
浜田純（助役）

## 30周年実行委員会を組織

来年の市制施行三十周年に向けて記念事業の推進を図るため、市内の各団体の代表者による南国市制施行三十周年記念事業実行委員会が組織されました。

実行委員会は、商工会や観光協会、農協などの代表者三十五人によって構成され、事業の策定や推進、市民の協力体制づくりの検討を行っていきます。

十一月二十六日には第一回の実行委員会が市役所で開かれ、まず三十周年記念事業企画実行委員会

の委員長である浜田純（助役）が「四万八千市民全員が南国市の将来の発展を願う記念事業にしたい」とあいさつ。続いて役員を選出が行われ、委員長に吉村雅男氏（南国市商工会長）、副委員長に乾常美氏（南国市農協婦人部長）が選ばれました。

その後、企画実行委員会が計画した記念事業について説明。事業の位置づけや実施方法などについて話し合いが行われました。

## 懐かしの写真の情報を寄せてください

古い写真をお持ちの方は、いつでも、どこで、何を写した写真を、〒783 南国市大埔中二二〇一 南国市役所 市制施行三十周年企

画実行委員会 ☎21111内線 401、408へお知らせください。